



2024 Global Spotlight インサイト レポート

地域や業界を超えて
イノベーション、コラボレーション、
レジリエンスを促進する
オープンソースの役割

2024年12月

Adrienn Lawson, *The Linux Foundation*

序文: Irving Wladawsky-Berger, *MIT*



2024 Global Spotlight インサイト レポート

オープンソースのセキュリティに対する信頼は依然として強く、回答者の **68%** は **OSSはより安全** と考えています。



回答者の **79%** が、オープンソース開発アプローチが **ソフトウェア開発の向上** につながると考えています。



回答者の **77%** は、**公的資金で開発されたソフトウェアはオープンソースであるべき** であることに同意しており、これはオープンソースの原則に強く一致していることを反映しています。



回答者の半数近くは、新たな規制がオープンソースへの貢献にどのような影響を与えるかについて、**依然として確信を持っていません**。

IT およびメディア業界はオープンソースの使用と貢献の両方でリード していますが、政府や医療などの規制対象セクターは OSS への関与に慎重です。



OSS 貢献者は、平均して **週 9 時間** をオープンソースプロジェクトに費やしています。



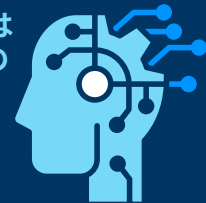
回答者の **50%** が OSS への貢献は無給であると報告していますが、**最大の課題は依然として時間不足** (63%) であり、次いで資金不足 (34%) となっています。



5 社中 2 社 が重要な OSS プロジェクトを維持するためにメンテナーを雇用しており、そのうち **74%** の組織が **メンテナーの雇用から高い価値を得ています**。



人工知能/機械学習 はオープンソース開発の恩恵を受けている主要な分野であり、**44%** で最も多く言及されています。



オープンソースの業界における主なメリットは、**イノベーション** (57%)、**標準と相互運用性** (57%)、**生産性** (50%) です。



OSS 貢献者の **72%** は **学習を動機** としており、69% は魅力的または有用であると感じるプロジェクトへの参加を動機としています。



回答者の **64%** は、**2024 年に OSS の使用によるビジネス価値の増加を報告し**、56% は OSS の貢献による **メリットの増加** を報告しています。



目次

| | |
|---------------------|----|
| 序文..... | 4 |
| はじめに..... | 5 |
| 優先順位の変化..... | 6 |
| 地域分析..... | 7 |
| 北米..... | 8 |
| ヨーロッパ..... | 9 |
| アジア-太平洋..... | 10 |
| 業界分析..... | 11 |
| 業界分析II..... | 12 |
| 他業界連携 IT..... | 13 |
| 通信とメディア..... | 14 |
| 工業および製造業..... | 15 |
| 政府及び公共サービス..... | 16 |
| ヘルスケアとライフサイエンス..... | 17 |
| 金融サービス..... | 18 |
| OSS コントリビューター..... | 19 |
| OSS の資金調達..... | 20 |
| 調査方法..... | 21 |
| 著者について..... | 25 |
| 謝辞..... | 25 |

序文

何世紀にもわたって、専門家は、宇宙の秘密の探求から新しい医療治療の開発まで、その時代の最も複雑で重要な問題のいくつかに共同で取り組んできました。オープンソースは、共同イノベーションのこの長い伝統の一部です。この序文では、IT 業界での私の個人的な経験から、共同イノベーションの具体的な成功例を 2 つ挙げたいと思います。

IT 業界の初期の数十年では、ベンダーが独自のシステムを市場に提供していました。このシステムは、同じ企業内で使用する場合にはうまく機能しますが、複数の企業、特に別のベンダーの製品を使用する場合には使用が煩雑でした。IBM のアプリケーションを使用して、別のベンダーのアプリケーションを使用して、別の機関の別のユーザーに電子メールを送信するだけでも、かなり煩雑でした。

インターネットがすべてを変えました。インターネットは、フォールトトレラントなコンピュータネットワークを開発するために、米国国防総省が後援する学術および研究コミュニティの共同プロジェクトとして始まりました。1980 年代半ばまでに、インターネットはこれらのコミュニティ内で広く使用され、テストされていました。数年後、別の主要な共同プロジェクトである World Wide Web によって、世界中の科学者がシームレスに情報を共有できるようになりました。1990 年代にインターネットと Web が広く受け入れられると、企業内と同様に企業間で電子メールを送信したり、情報にアクセスしたりすることは難しくなくなりました。主要なプロトコルのオープンソース実装を含む、すべての人が同じ標準を使用していました。

同様の状況がオペレーティングシステムでも発生しました。IT 業界の初期の数十年にわたって、さまざまな企業が独自のプロプライエタリなオペレーティングシステムを使用していたため、ユーザーとベンダーがアプリケーションを異なるベンダーのコンピューターに移植することは困難でした。最後に、[Linux](#) は 1990 年代にオープンソースオペレーティングシステムとして登場し、当初は研究コミュニティや学術コミュニティで採用されました。時間の経過とともに、ますます多くの企業が Linux を採用し、その開発に貢献し、現在ではほぼすべての業界で数百のオープンソースプロジェクトをサポートしています。

2024 年の Global Spotlight Insights レポートでは、このオープンで共同作業の革命がこの数十年でどのように進化したかを知ることができます。1990 年代に [IBM インターネットイニシアチブ](#) を率いた個人的な経験と、2000 年代初頭の IBM [Linux イニシアチブ](#) に基づいて、私が最も印象的だと感じた調査結果を三つ紹介します。

回答者の 79% が、オープンソース開発アプローチがより良いソフトウェア開発につながると考えています。時代はどのように変わったのでしょうか。1990 年代半ば、私たちはインターネットの [オープンで協力的なイノベーションの文化](#) が、21 世紀のビジネスに必要なことを企業に納得させるために、懸命に努力しなければなりません。2000 年代初頭の Linux では、Linux が商用市場であり知られていなかったため、作業はさらに困難でした。

人工知能 / 機械学習は、オープンソース開発から最も恩恵を受ける技術の上位にランクされています。技術者や経営者の大多数は、オープンで共同のイノベーションが時代の最も重要な技術に対処するためには必要であることを認めています。

オープンソースのセキュリティに対する信頼は依然として高く、回答者の 68% が、OSS はクローズドソースのソフトウェアよりも安全であると考えています。1990 年代後半、私たちは多くの専門家と協力し、スーパーコンピュータやその他の機密性の高いシステムの開発にオープンソースソフトウェアを使用すべきかどうかを検討しました。現在、オープンソースが AI システムにどのように適用されるかを検討する中で、この疑問が再び提起されています。

最後に、2024 年の Linux Foundation の [これまでの業績](#) について触れておきます。2000 年初頭、IBM は他の数社とともに、Linux の継続的な開発をサポートするコンソーシアムを結成し、新しい非営利組織である [Open Source Development Labs](#) を設立しました。これが 2007 年に Linux Foundation となりました。Linux Foundation が長年にわたって成長してきたことには本当に感銘を受けました。約 1,300 社のメンバーが、ほぼすべての水平および垂直的な業界で何百ものオープンソースプロジェクトをサポートしています。過去 25 年間の Linux Foundation の成長は、オープンな共同イノベーションの長い伝統を反映しています。

[Irving Wladawsky-Berger, MIT](#)

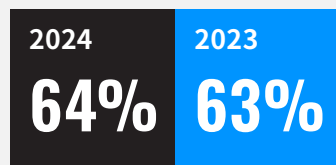
はじめに

オープンソースソフトウェア (OSS) は、イノベーション、協力、そしてテクノロジーの民主化を推進する原動力となっています。2024 年の「World of Open Source: Global Spotlight Survey」は、この進化するエコシステムを深く掘り下げ、OSS が産業や地域を超えてどのように採用され、支援され、維持されているかを包括的に分析することを目的として企画されました。このレポートは、年ごとのトレンドを追跡し、オープンソースの機会と課題における地域や産業の違いを分析しています。

LF Research は、世界中の組織がその使用の価値、貢献から得られる利益、および投資の優先分野の観点から、オープンソースの傾向を測定するためにこの調査を実施しています。前年比のデータを比較すると、OSS の価値が高まっていることがわかります。回答者の 64% は、2023 年以降の OSS の使用によるビジネス価値の向上を報告しており、56% はオープンソースプロジェクトへの貢献によるより大きな利益を報告しています。これは、2022 年と比較して 2023 年に組織が報告した価値と利益の増加に加えて、コラボレーションとイノベーションが互いに影響し合って持続的な勢いを生み出す OSS の価値に対する複合的な効果を示唆しています。

今年のレポートは、以前に発表された[ヨーロッパ](#)と[日本](#)のスポットライトレポートからの洞察に基づいており、地域と世界の視点を提供するように拡張されています。このレポートでは、構造化された OSS 戦略を重視する北米、規制の影響に対する楽観的なアジア太平洋、OSS を公共の価値と整合させることへのコミットメントなど、地域ごとのニュアンスを明らかにしています。業界固有のデータは、金融サービスや医療などのセクターが、イノベーションと規制コンプライアンスの二重の要求をどのように処理しているかを示しています。

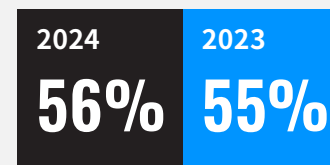
2024 年のレポートでは、オープンソースの人的側面も強調しています。コントリビューターは、学習とコラボレーションの機会を動機とするエコシステムのバックボーンであり続けます。しかし、時間の制約、無給の労働、複雑なコントリビューションプロセスなど、彼らが直面する課題は、組織的なサポートの必要性を示しています。オープンソースの影響力が高まるにつれて、これらの洞察は、その可能性を最大化しようとしている組織やコミュニティにとって重要です。



昨年よりも OSS の利用価値が高まったと回答した回答者の割合

2023 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q20、サンプルサイズ=771(DKNS を除く)

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q33、サンプルサイズ=838(DKNS を除く)



昨年よりも OSS 拠出による利益が増加したと回答した回答者の割合

2023 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q27、サンプルサイズ=507(DKNS を除く)

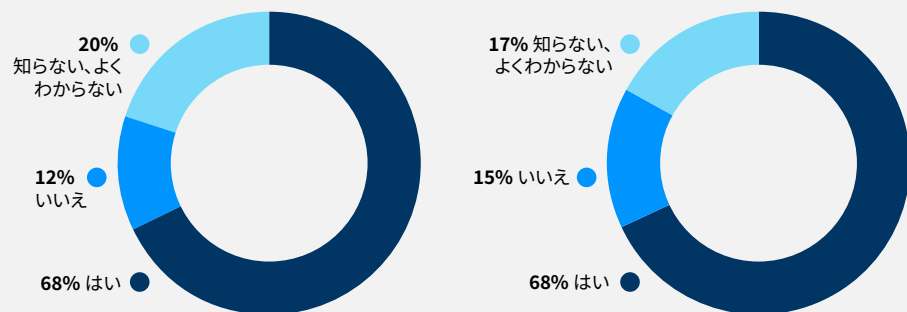
2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q39、サンプルサイズ=728(DKNS を除く)

優先順位の変化

図1によると、オープンソースソフトウェアのセキュリティに対する信頼は2024年も変わらず、回答者の68%がOSSはクローズドソースソフトウェアよりも安全であると断言しており、2023年の結果と一致しています。ただし、OSSのセキュリティについて確信がないと答えた人の割合は、2023年の17%から2024年には12%に減少しています。この傾向は、最近のXZ Utilsのバックドア攻撃などの注目を集めるインシデントによって脆弱性が明らかになったにもかかわらず、オープンソースのセキュリティプラクティスに対する認識が高まっていることを示しています。XZ Utilsのインシデントは、メンテナーとコントリビューターを知ることの重要性、リリース前テストの重要性、迅速な検出と解決の利点を思い出させるものでした。

投資の優先順位(表1)に関しては、2024年は前年と比較して焦点が変化しています。今年の実験者の最優先事項は、技術独占に代わるオープンソースへの投資です(49%)。この変化は、プロプライエタリなプラットフォームへの依存とベンダーニュートラルなソリューションの必要性に対する懸念の高まりを反映しています。政府によるオープンソースの採用は40%と引き続き重要であり、透明性を通じた公共部門の近代化にとってOSSが引き続き重要であることを示しています。2024年には、OSSに関する学術教育の向上が重要な分野として浮上しています(31%)。これは、次世代のオープンソースの貢献者とユーザーに依存しているため、OSSの持続可能性にとって教育が重要であると回答者が考えていることを示しています。

図1
OSSに対する信頼は依然として高い
OSSはオープンソースソフトウェアよりも安全だと考える回答者の割合



2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q19、サンプルサイズ=1264

2023 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q21、サンプルサイズ=712

表1
さらなる投資
あなたの地域では、どの分野にオープンソースへの投資を増やすべきだと思いますか？

| | 2024 | 2023 |
|----|-----------------------|--|
| #1 | 技術独占に代わるオープンソース (49%) | 政府によるオープンソースの採用 (40%) |
| #2 | 政府によるオープンソースの採用 (40%) | 商用オープンソース・スタートアップ・エコシステムへのより良い資金提供 (30%) |
| #3 | OSSに関する学術教育の向上 (31%) | 技術独占に代わるオープンソース (29%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q16、サンプルサイズ=1,264、合計言及数=3,373

2023 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q41、サンプルサイズ=599、合計言及数=1,507

地域分析

年からの最も重要な変化を見た後、OSSの使用、貢献、戦略的イニシアチブの違いに焦点を当てた地域分析に移ります。図2の地域分析は、3つの地域すべてで、組織がオープンソースの使用と貢献に強いコミットメントを示し、OSPOなどの構造化されたオープンソースイニシアチブの確立が着実に進んでいることを示しています。これらの類似点は、地域の微妙な違いが優先順位とアプローチの違いを反映している場合でも、オープンソースの価値が普遍的に認識されていることを示しています。

北米とヨーロッパは、ほとんどの測定でほぼ同等です。ばらつきは小さく、関与の根本的な格差ではなく、統計的信頼区間を反映している可能性があります。

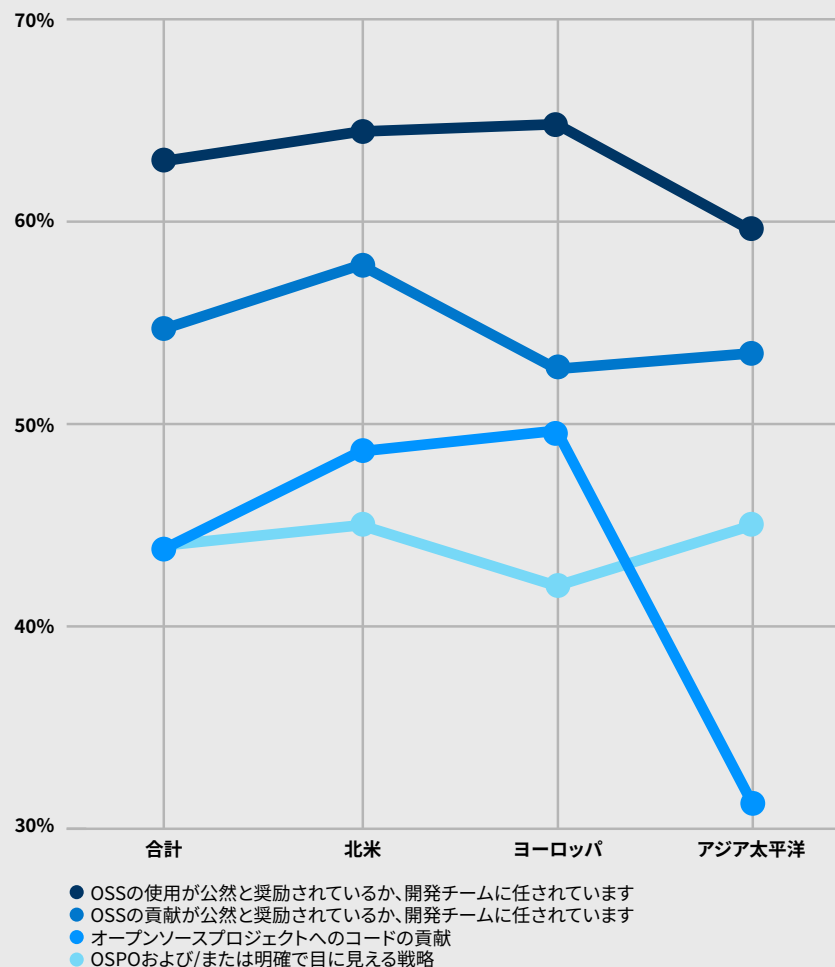
アジア太平洋地域は、ほとんどのカテゴリでわずかに遅れをとっていますが、決して例外ではありません。しかし、貢献したコードには顕著なギャップがあり、貢献を報告した組織はわずか31%でした。これは、リソースの制約や、積極的な参加を優先する上での地域固有の課題を示唆しています。

全体的な傾向は、各地の組織がオープンソースの実践の導入と推進において緊密に連携していく傾向にあります。地域ごとのニュアンスは存在するものの、それらは相互学習の機会を浮き彫りにしています。例えば、ヨーロッパは比較的高いレベルのコード貢献を示し、北米は形式化された戦略を重視しています。

全体として、2024年に観察されたパターンは2023年に見られたパターンと一致しています。ただし、サンプル構成の違いにより、今年はずべての測定値の割合がわずかに低くなっているようです。この減少は、オープンソースの重視が低下したと解釈する必要はありませんが、調査の人口統計の変動を反映している可能性があります。

図2

様々な指標に基づく OSSエンゲージメントの地域別内訳



2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q26、Q34、Q37、Q13、サンプルサイズ = 815-916

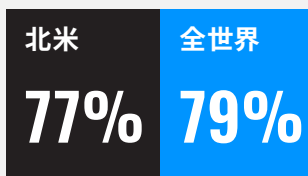
北米

北米はオープンソースへの取り組みにおいて力強いパフォーマンスを示していますが、まだ成長の余地があります。北米の回答者の大多数 (77%) は、オープンソースの開発モデルはクローズドモデルと比較して、より優れたソフトウェアセキュリティにつながると考えています。この共通の信頼は、特に組織が改善のための重要な分野に取り組むならば、この地域におけるさらなる OSS の導入のための強固な基盤となります。

OSS の利用 (表 2) に関して、北米の回答者は、明確で分かりやすい戦略の必要性、改善されたセキュアなソフトウェア開発手法、および OSS ポリシーをサポートする自動化されたツールを指摘しています。これらの優先事項は、組織内でのより積極的で確信を持った OSS 利用を促進するために、構造化されたアプローチと改善されたセキュリティ対策が有効であることを示しています。

貢献の側面 (表 2) においても、更なる取り組みを行う明確な機会があることも示されています。組織は、従業員の時間を OSS 作業に割り当てること、オープンソースプロジェクトに資金を提供すること、組織全体で OSS に関する教育を提供することの重要性を強調しています。これらの施策は、貢献を大幅に増加させ、オープンソースコミュニティとの組織的な関与が深まる可能性があります。

データはまた、好循環を示しています。安全なソフトウェア開発プラクティスを改善し、OSS に貢献することで、組織は OSS のセキュリティを直接改善できます。この共有された責任は、OSS がますます安全になるという正のフィードバックループを作成し、採用と貢献をさらに奨励し、高いセキュリティ標準を維持するための共同責任を強化することができます。



OSS 開発アプローチはクローズドアプローチと比較してソフトウェアセキュリティの向上につながると考えている回答者の割合

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q20 サンプルサイズ = 916

表 2

北米における OSS の使用と貢献を増加させる可能性のある要因

| | OSS の使用を増加させるための活動 | OSS の貢献を上げるための活動 |
|----|----------------------------|---------------------------------|
| #1 | 明確で目に見える開発を割り当てる (59%) | オープンソース貢献のために従業員の時間を割り当てる (55%) |
| #2 | セキュアなソフトウェア開発方法の改善 (56%) | OSS プロジェクトへの資金提供 (55%) |
| #3 | ポリシーをサポートする自動化ツールの提供 (51%) | OSS の価値提案に関する組織全体の教育の提供 (48%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q32、Q43、サンプルサイズ = 319

ヨーロッパ

ヨーロッパはオープンソースの原則に強く賛同しており、回答者の 82% が公的資金を利用して開発されたソフトウェアはオープンソースであるべきだと考えています。この意見は世界平均の 77% を上回っており、特に公共の利益やガバナンスと交差する分野での、開放性、透明性、コラボレーションに対するヨーロッパのコミットメントを反映しています。

このように賛同しているにもかかわらず、表 3 は、この地域でオープンソースの潜在能力を最大限に引き出すために戦略的な対応が必要な分野を浮き彫りにしています。ヨーロッパの組織は、明確で目に見える戦略を策定すること、安全なソフトウェア開発手法を改善すること、法律、コンプライアンス、セキュリティ支援を強化することの重要性を強調しています。

貢献面では、OSS への貢献に従業員の時間を割り当て、OSS プロジェクトに資金を提供することが、重要な実現要因として認識されています。さらに、OSS の価値提案に関する組織全体の教育は、理解のギャップに対処し、オープンソースコミュニティへのより積極的な参加を促進することができます。

ヨーロッパのオープンソースへのアプローチは、公共の価値と戦略的優先事項のバランスをとり、世界的な模範を示す独自の位置にあります。この連携は、地域経済を支援するだけでなく、グローバルなオープンソース開発の将来の方向性に影響を与える地域の能力を強化し、オープン性、アクセシビリティ、共有された進歩の原則との継続的な連携を確保しています。

ヨーロッパ 全世界
82% 77%

OSS 開発アプローチはクローズドアプローチと比較してソフトウェアセキュリティの向上につながると考えている回答者の割合

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q18 サンプルサイズ = 916

表 3

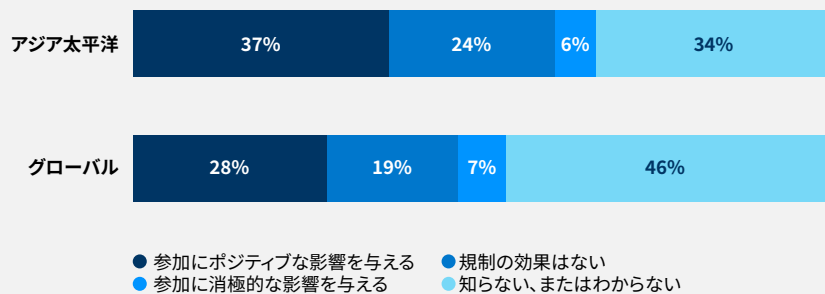
ヨーロッパにおける OSS の使用と貢献を増加させる可能性のある要因

| | OSS の使用を増加させるための活動 | OSS の貢献を上げるための活動 |
|----|----------------------------|--------------------------------|
| #1 | 明確で目に見える OSS 戦略の策定 (54%) | オープンソース貢献のために従業員時間を割り当てる (57%) |
| #2 | セキュアなソフトウェア開発方法の改善 (49%) | OSS プロジェクトへの資金提供 (55%) |
| #3 | ポリシーをサポートする自動化ツールの提供 (48%) | OSS の価値提案に関する組織全体の教育の提供 (52%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q32、Q43、サンプルサイズ = 328

図 3

新しいソフトウェア規制がオープンソースに与える影響



2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q25 サンプルサイズ = 916

表 4

アジア太平洋における OSS の使用と貢献を増加させる可能性のある要因

| | OSS の使用を増加させるための活動 | OSS の貢献を上げるための活動 |
|----|----------------------------|---------------------------------|
| #1 | 明確で目に見える OSS 戦略の策定 (51%) | OSS の価値提案に関する組織全体の教育の提供 (52%) |
| #2 | セキュアなソフトウェア開発方法の改善 (49%) | 従業員への明確な方針の提供 (50%) |
| #3 | ポリシーをサポートする自動化ツールの提供 (49%) | オープンソース貢献のために従業員の時間を割り当てる (48%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q32、Q43、サンプルサイズ = 269

アジア太平洋

2024 年の調査結果は、アジア太平洋地域がオープンソースへの取り組みに慎重ながらも楽観的な見方をしていることを示しています。規制の不確実性は依然として世界的なテーマですが、アジア太平洋地域の回答者は他の地域と比較して最も不確実性が低く、新たな規制の影響について不確実性を表明しているのはわずか 34% で、これは世界平均よりも低くなっています (図 3)。さらに、同地域の回答者の 37% は、世界的な規制の変化がオープンソース参入にプラスの影響を及ぼすと考えており、アジア太平洋地域は最も楽観的な地域となっています。この楽観的な見方は、同地域の積極的な政府イニシアティブ、デジタルトランスフォーメーションへの注力、5G、IoT、AI などの新興テクノロジーにおけるリーダーシップに起因している可能性があります。新たな規制は、OSS の採用を拡大し、相互運用性とセキュリティを向上させるための明確な枠組みを提供する機会とみなされている可能性があります。

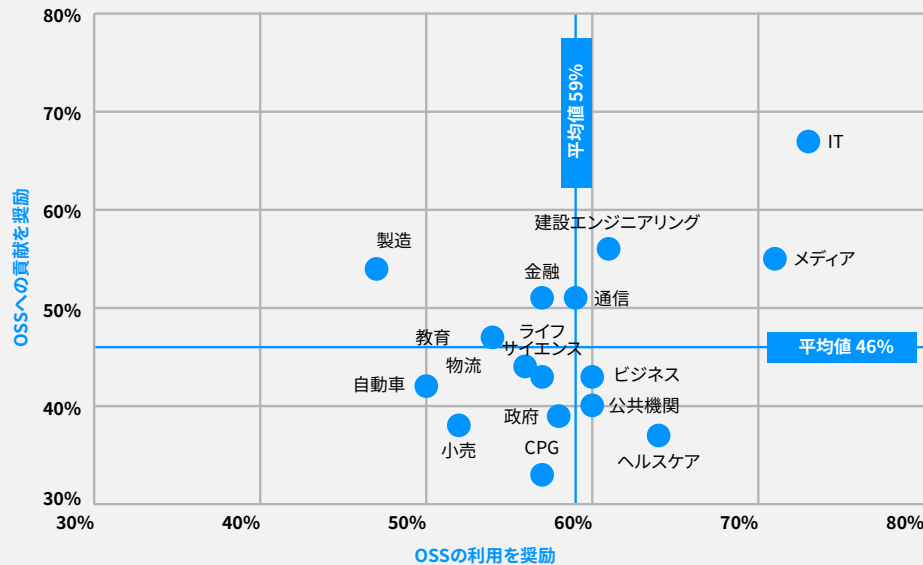
オープンソースの採用をさらに推進するために (表 4)、アジア太平洋地域の回答者は、安全なソフトウェア開発プラクティスとトレーニングとガイダンスへの投資とともに、明確で目に見える戦略の必要性を強調しています。これらの優先事項は、組織全体で OSS の使用に対する信頼を醸成するための構造化されたフレームワークとスキル開発の重要性を反映しています。これらの分野での積極的な措置は、地域に影響を与える急速に進化し、急速に進化しているグローバルな規制および技術環境とオープンソースの実践を連携させることとなります。

貢献の面では (表 4)、回答者は、OSS の価値に関する組織全体の教育、従業員の貢献に関する明確なポリシー、OSS の貢献のための従業員の時間の割り当てなど、いくつかの重要な実現要因を特定しています。これらの対策は、リソースの制約と知識のギャップに対処することで、オープンソースコミュニティへの参加を促進し、組織が慎重な関与から積極的な貢献に移行できるようにすることができると考えられます。

業界分析

地域ごとの詳細の次に調査において取り上げられたさまざまな業界に目を向けます。図4は、組織内のOSS（オープンソースソフトウェア）に関する方針を示し、異なる業界がどのようにオープンソースへの関与をバランスよく保っているかを視覚化しています。横軸（x軸）は、オープンソースの使用が積極的に推奨されている組織の割合を示し、縦軸（y軸）は、オープンソースへの貢献を推進している組織の割合を示しています。

図4
各業界における OSS 使用の奨励と
貢献の比較



2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、X=Q26、Y=Q34、点データ = Q11、
サンプルサイズ = 885 (NSS > 15 の産業のみが表示され、DKNS は除外されています)

縦線（59%）は、OSS（オープンソースソフトウェア）の利用に関して寛容な方針を持つ組織の全体平均割合を示しています。また、横線（46%）は、OSSへの貢献に関して寛容な方針を持つ組織の割合を示しています。この図表から、IT業界とメディア業界がOSSの利用と貢献の両方を非常に支持していることがわかります。特にIT業界では、OSSへの貢献がさらに奨励されています。これらの業界は右上の象限に位置しており、オープンソースを活用して迅速なイノベーションと柔軟性を推進しています。この姿勢は、コラボレーションと継続的な開発を重視する文化から恩恵を受けています。彼らのオープンな方針は、スピード、柔軟性、競争優位性に戦略的に重点を置き、OSSをその重要な推進力としています。

これとは対照的に、金融、電気通信、建設/エンジニアリングなどの業種は、オープンソースの利用と貢献の双方を中程度に奨励していることを示しており、中間付近に位置しています。これらの業種は、コスト削減や技術進歩のためのオープンソースの価値を認識しながらも、慎重さを求める規制の枠組みの中で活動しています。彼らのバランスの取れたアプローチは、コンプライアンスとセキュリティに関連するリスクを注意深く管理しながら、オープンソースを活用しようとする試みを反映しています。

政府、小売、消費者包装財（CPG）、および自動車部門は左下の象限に属し、OSSの使用と貢献の両方に対してより厳格なポリシーを維持しています。これらの規制の厳しい業界は、データ・プライバシー、セキュリティ、コンプライアンスに関連する大きな制約に直面しており、オープンソースに全面的に関与する能力を制限しています。しかし、これらのセクターがより多くのデジタルソリューションを採用するにつれ、OSSのコスト効率、相互運用性、イノベーションの可能性を活用するために、ポリシーを再評価する必要が出てくるかもしれません。

全体として、この分析は、オープンソースが広く価値あるものである一方で、その採用や貢献は業界特有の要件に大きく影響されることを示唆しています。制限的な政策をとっているセクターは、競争力を維持し、コストを削減し、イノベーションを加速するために、より柔軟なOSS戦略を模索することが有益である可能性があります。

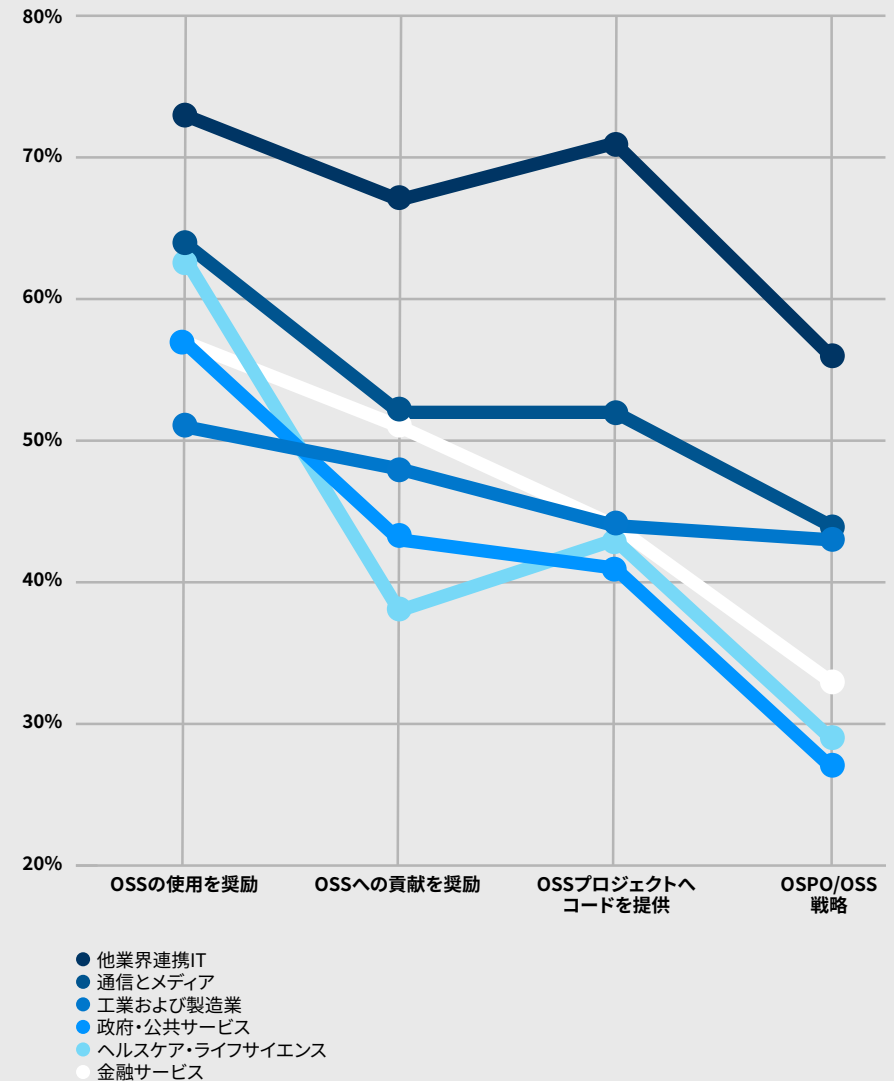
業界分析 II

オープンソースの使用と貢献のポリシーに関する以前の分析に基づいて、図5は、さまざまな業界が特定のプラクティスを通じてオープンソースに積極的に関与していることをより深く掘り下げています。業界のカテゴリを5つの分野に統合しました。データは、業界を超えたIT、通信、メディアがオープンソースの全体的な採用をリードしていることを示しています。OSSの使用が高いレベルで奨励され、プロジェクトへの多大な貢献があり、OSPOまたは正式な戦略が存在しています。この高い関与は、イノベーション、相互運用性、迅速な展開が競争上の優先事項であるこれらの分野におけるオープンソースの戦略的重要性を反映しています。

対照的に、政府および公共サービス、ヘルスケアおよびライフサイエンス、金融サービスの分野は、より慎重なアプローチを示しています。これらの業界の多くの組織はOSSの使用を許可していますが、積極的に貢献を奨励している組織は少なく、OSPOや目に見えるオープンソース戦略を確立している組織は少数です。このような制限的なスタンスは、規制上の制約、セキュリティ上の懸念、知的財産(IP)に関する考慮事項が原因である可能性があります。正式なOSSプログラムや戦略がなければ、これらの業界は、コスト削減、より迅速なイノベーション、開発の加速など、オープンソースの利点を十分に活用するのに苦労する可能性があります。次のページでは、これら5つの業界を詳しく見て、それぞれの独自の立場を理解します。

図5

業界分野別の OSS 関与の割合



2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q26、Q34、Q37、Q13、
サンプルサイズ=850-884(DKNSは除外しています)

他業界連携 IT

表 5 は、イノベーションを促進し、標準を確立し、開発コストを削減するために、業界がますますオープンソースに目を向けていることを示しています。人工知能と機械学習 (AI/ML) は、オープンソースから最も恩恵を受けている分野として浮上しており、回答者の 50% がその変革の可能性を指摘しています。オペレーティングシステムとクラウド / コンテナ技術も上位にランクインしており、複雑で進化する要件を満たすために共同開発に依存していることを強調しています。

オペレーティングシステム、クラウドとコンテナ、CI/CD パイプラインにおけるオープンソース技術の高い採用率は、OSS が IT インフラストラクチャ全体で現在果たしている基本的な役割を示しています。DevOps/

GitOps プラクティスにおけるオープンソースの広範な使用は、より広範な傾向を反映しています。組織は、開発サイクルを加速し、信頼性を高め、柔軟で拡張可能なアーキテクチャをサポートするために OSS にますます依存しています。

これらの利点を実現するために、IT 業界は持続可能な資金調達モデルを優先し、企業がコードやリソースを提供しやすくする共同エコシステムを促進する必要があります。これにより、組織は、依存する OSS プロジェクトの寿命とセキュリティを確保しながら、イノベーションとコスト効率の共有を通じて競争力を強化することができます。

オープンソースの恩恵を最も受ける業界分野

1. 業界標準と相互運用性 62%

オープンソースソフトウェアが複雑なマルチベンダー環境において統一的な力となる明確な可能性。

2. イノベーション 59%

オープンソースソフトウェアは、多様な貢献者が実験を行い、最先端技術を進歩させることができる独自の環境を提供します。

3. 製品開発コストを 53% 削減 53%

オープンソースソフトウェアは、企業が車輪の再発明をするのではなく、既存のコミュニティでテストされたソリューションを基に構築することを可能にします。

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q23、サンプルサイズ=381

表 5

IT における主なオープンソース技術

| オープンソースから得られる最大の利益 | オープンソースの最も優れた活用事例 | OSS への貢献方法 |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. AI / ML (50%) | 1. オペレーティングシステム (65%) | 1. クラウド / コンテナ (33%) |
| 2. オペレーティングシステム (33%) | 2. クラウド / コンテナ (62%) | 2. CI / CD (30%) |
| 3. クラウド / コンテナ (30%) | 3. CI / CD (61%) | 3. Web とアプリ配布 (28%) |
| 4. DevOps / GitOps (19%) | 4. DevOps / GitOps (55%) | 4. オペレーティングシステム (28%) |
| 5. CI / CD (19%) | 5. Web とアプリ配布 (54%) | 5. DevOps / GitOps (26%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q14、Q29、Q16、

各サンプルサイズ=381、378、378

通信とメディア

表 6 は、通信とメディアの企業がオープンソースに大きな価値を見出していることを示しています。特に AI/ML の発展に大きな価値を見出しており、44% が最も恩恵を受ける分野としてこれを挙げています。クラウドとコンテナの技術とオペレーティングシステムが密接に続いており、この分野におけるスケーラブルなインフラストラクチャと効率的なサービス提供をサポートする上での重要な役割を反映しています。

オープンソースの採用率は、クラウドとコンテナの技術とオペレーティングシステムで最も高く、CI/CD ツールが僅差で続いています。この高い採用率は、通信とメディアの企業が継続的な展開を可能にし、運用効率を向上させ、市場の需要に迅速に対応するためにオープンソースに

依存していることを示しています。貢献率が最も高いのはクラウドとコンテナと CI/CD であり、この業界が展開プロセスを合理化し、ネットワークのパフォーマンスを向上させるプロジェクトに取り組んでいることを強調しています。

今後、オープンソースに積極的に投資し、貢献している通信とメディアの組織は、イノベーションサイクル、運用効率、透明性の向上から利益を得ることができます。これらの業界は、インフラストラクチャと高度なアプリケーションの両方でオープンソースに依存し続けているため、戦略的目標と密接に連携する OSS プロジェクトの方向性を形成する機会があります。

オープンソースの恩恵を最も受ける業界分野

1. イノベーション 61%

共同開発は、単独では困難なブレイクスルーを加速させます。

2. 生産性 56%

オープンソースソフトウェアを使用すると、企業は事前に構築されたソリューションを活用し、社内リソースを差別化に集中できます。

3. 透明性 53%

非常に厳格化された業界において、顧客との信頼関係を構築するために不可欠です。

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q23、サンプルサイズ=103

表 6

通信とメディアにおける主なオープンソース技術

| オープンソースから得られる最大の利益 | オープンソースの最も優れた活用事例 | OSS への貢献方法 |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 人工知能 / 機械学習 (44%) | 1. クラウド / コンテナ (60%) | 1. クラウド / コンテナ (25%) |
| 2. クラウド / コンテナ (34%) | 2. オペレーティングシステム (60%) | 2. CI / CD (22%) |
| 3. オペレーティングシステム (34%) | 3. CI / CD (57%) | 3. ネットワーク (22%) |
| 4. DevOps / GitOps (28%) | 4. DevOps / GitOps (57%) | 4. Web とアプリ開発 (19%) |
| 5. サイバーセキュリティ (21%) | 5. Web とアプリ開発 (49%) | 5. DevOps / GitOps (17%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q14、Q29、Q36、各サンプルサイズ=103、102、99

工業および製造業

表7は、工業・製造業が基盤技術のオープンソースに大きな価値を見出していることを示しています。回答者は、オペレーティングシステム、AI/ML、サイバーセキュリティがオープンソースから最も恩恵を受けると考えており、産業アプリケーションにおける安全で適応性が高く、効率的なソフトウェアの重要性を強調しています。オープンソースの採用率が最も高いのはオペレーティングシステムで、続いてCI/CDツールとデータベース管理が続きます。これは、インフラストラクチャと自動化プロセスの両方でOSSに依存していることを反映しています。

貢献率が最も高いのはオペレーティングシステムとIoT/組み込みシステムです。これらの分野は、産業のIoTと自動化にとって重要です。このことは、企業がリソースを投資して、コネクテッドデバイスと信頼性の高いオペレーティング環境のニーズに密接に対応するオープンソーステクノロジーを改善していることを示しています。

しかし、いくつかの障壁がこの部門のオープンソースの採用と貢献を制限しています。回答者の56%が、OSSの非技術的な価値提案に対する理解不足を挙げています。これは、多くの産業組織が、OSSが技術的な機能だけでなく、より広範なビジネス目標をサポートする方法を理解するのに苦労していることを示しています。さらに、ライセンスとIPに関する懸念が重要であり、回答者の半数以上がこれらを使用の障壁として挙げており、ほぼ同じ数の回答者が貢献する際の法的問題を懸念しています。OSSコンポーネントの品質に関する懸念と投資収益率の不確実性は、この部門の組織が信頼性とROIを優先するため、オープンソースへの取り組みをさらに複雑にしています。

表7

工業・製造業における主なオープンソース技術

| オープンソースから得られる最大の利益 | オープンソースの最も優れた活用事例 | OSSへの貢献方法 |
|---------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. オペレーティングシステム (37%) | 1. オペレーティングシステム (52%) | 1. オペレーティングシステム (23%) |
| 2. 人工知能 / 機械学習 (33%) | 2. CI / CD (37%) | 2. IoT/ 組み込み (21%) |
| 3. サイバーセキュリティ (30%) | 3. データベース管理 (36%) | 3. クラウド / コンテナ (17%) |
| 4. データ分析 / データサイエンス (23%) | 4. DevOps / GitOps (35%) | 4. DevOps / GitOps (15%) |
| 5. IoT/ 組み込み (23%) | 5. Web とアプリ開発 (31%) | 5. CI / CD (14%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q14、Q29、Q36、サンプルサイズ=101、99、94 各自

表8

OSSの利用と貢献に対する障壁として最も多く挙げられたもの

| | 利用への障壁 | 貢献への障壁 |
|----|-------------------------|-----------------------------|
| #1 | 非技術的な価値提案を理解していない (56%) | 法的またはライセンスに関する懸念 (46%) |
| #2 | 知的財産に関するライセンス供与 (54%) | 知的財産の流出の恐れ (45%) |
| #3 | OSSコンポーネントの品質への懸念 (47%) | 投資に対するリターンが明らかに不足している (32%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q11、Q42、サンプルサイズ=101

政府及び公共サービス

表 9 は、政府および公共サービス部門が OSS テクノロジーをどのように活用しているかを示しています。回答者の 47% が、OSS から最も得るものがある分野として AI/ML を挙げ、オペレーティングシステムと分析 / データサイエンスがそれに続きます。これらの優先事項は、データ駆動型の意思決定をサポートし、サイバーセキュリティを改善し、スケラブルで費用対効果の高いデジタルインフラストラクチャを実現するために、オープンソースへの関心が高まっていることを反映しています。

採用率が最も高いのはオペレーティングシステムで、回答者の 56% がこの分野でオープンソースを使用しており、Web およびアプリケーション開発がそれに続きます。しかし、貢献は比較的限られており、Web 開発とオペレーティングシステムが公共部門から最も多くの関与を得ています。これは、内部の効率性と公共向けの OSS の活用に焦点を当てて

いることを示しています。一方で、コミュニティへの貢献は特定の課題によって制約されています。

主な障壁は、政府における OSS の採用と貢献を制限しています。回答者の 52% は、非技術的な価値提案に対する理解の欠如を大きな障壁として挙げています。さらに、49% は OSS の採用方法に関する明確なポリシーやトレーニングがないと報告しており、効果的でコンプライアンスの高い OSS の使用をサポートするための構造化されたガイダンスの必要性を強調しています。公的機関は厳しい規制や知的財産の要件に直面することが多いため、法律やライセンスに関する懸念は OSS への取り組みをさらに複雑にしています。今後、政府機関は、これらの法的および運用上の課題に対処する明確なポリシー、トレーニング、フレームワークから恩恵を受けることができます。

表 9

政府および公共サービスにおける主なオープンソース技術

| オープンソースから得られる最大の利益 | オープンソースの最も優れた活用事例 | OSS への貢献方法 |
|---------------------------|--------------------------|-----------------------|
| 1. 人工知能 / 機械学習 (47%) | 1. オペレーティングシステム (56%) | 1. Web とアプリ開発 (20%) |
| 2. オペレーティングシステム (37%) | 2. Web とアプリ開発 (45%) | 2. オペレーティングシステム (19%) |
| 3. データ分析 / データサイエンス (30%) | 3. データベース管理 (41%) | 3. 人工知能 / 機械学習 (16%) |
| 4. サイバーセキュリティ (26%) | 4. クラウド / コンテナ (35%) | 4. サイバーセキュリティ (14%) |
| 5. クラウド / コンテナ (19%) | 5. DevOps / GitOps (34%) | 5. クラウド / コンテナ (12%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q14、Q29、Q36、サンプルサイズ=150、147、143 各自

表 10

OSS の利用と貢献に対する障壁として最も多く挙げられたもの

| | 利用への障壁 | 貢献への障壁 |
|----|---|------------------------|
| #1 | 非技術的な価値提案を理解していない (52%) | 法的またはライセンスに関する懸念 (37%) |
| #2 | OSS の使用についての明確なポリシーまたはトレーニングやガイダンスが不足 (49%) | 知的財産の流出の恐れ (36%) |
| #3 | 知的財産 (IP) のライセンスに関する不安 (41%) | 技術的制約と困難 (31%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q31、Q42、サンプルサイズ=150

ヘルスケアとライフサイエンス

表 11 は、ヘルスケアおよびライフサイエンス、特に人工知能 / 機械学習におけるオープンソースの価値を強調しており、回答者の 37% がオープンソースから最も恩恵を受ける分野として挙げています。次にサイバーセキュリティとデータ分析 / データサイエンスが続きます。これは、データ駆動型ヘルスケアの重要な進歩をサポートし、高度に規制された環境でのセキュリティを強化するためにオープンソースを使用することに重点が置かれていることを反映しています。

オープンソースの採用は、基本的な技術で最も強く、オペレーティングシステムがトップのユースケースであり、クラウドとコンテナソリューション、DevOps/GitOps、CI/CD ツールが僅差で続いています。ただし、貢献はより限られています。貢献率が最も高いのは人工知能 / 機械学習とデータ分析 / データサイエンスで、医療研究と診断においてコラボレー

ションが意味のあるイノベーションを推進できる分野です。

潜在的な可能性があるにもかかわらず、この分野におけるオープンソースの利用と貢献には大きな障壁があります。回答者の 53% が OSS の非技術的価値に対する理解不足を挙げており、多くの医療機関がオープンソースが自社の戦略的目標とどのように合致するかを理解するのに苦労していることを示唆しています。セキュリティに関する懸念も顕著であり、49% が OSS コンポーネントの安全性を心配しており、業界のデータ保護に対する厳しい要件を反映しています。さらに、OSS の採用に関する明確なポリシーの欠如と、法的またはライセンス上の懸念が大きな障害となっており、知的財産リスクの恐れのために貢献が妨げられています。

表 11

ヘルスケアとライフサイエンスにおける 主なオープンソース技術

| オープンソースから得られる最大の利益 | オープンソースの最も優れた活用事例 | OSS への貢献方法 |
|---------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 1. 人工知能 / 機械学習 (37%) | 1. オペレーティングシステム (45%) | 1. 人工知能 / 機械学習 (22%) |
| 2. サイバーセキュリティ (34%) | 2. クラウド / コンテナ (40%) | 2. データ分析 / データサイエンス (17%) |
| 3. データ分析 / データサイエンス (27%) | 3. DevOps / GitOps (40%) | 3. Web とアプリ開発 (15%) |
| 4. オペレーティングシステム (25%) | 4. CI / CD (40%) | 4. クラウド / コンテナ (13%) |
| 5. クラウド / コンテナ (24%) | 5. データベース管理 (38%) | 5. データベース管理 (13%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q14、Q29、Q36、サンプルサイズ=59、58、54 各自

表 12

OSS の利用と貢献に対する障壁として 最も多く挙げられたもの

| | 利用への障壁 | 貢献への障壁 |
|----|---|------------------------|
| #1 | 非技術的な価値提案を理解していない (53%) | 方針や研修資料の不足 (42%) |
| #2 | OSS の使用についての明確なポリシーまたはトレーニングやガイダンスが不足 (49%) | 法的またはライセンスに関する懸念 (39%) |
| #3 | 知的財産 (IP) のライセンスに関する不安 (47%) | 知的財産の流出の恐れ (39%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q31、Q42、サンプルサイズ=59

金融サービス

表 13 は、金融サービスセクターがオープンソース技術をどのように活用しているかを示しています。ここでも、オープンソースから最も恩恵を受ける分野として人工知能 / 機械学習が挙げられました。サイバーセキュリティとデータ分析 / データサイエンスも優先度が高いです。これは、このセクターがデータ駆動型の洞察と高度に規制された環境でのセキュリティの向上に重点を置いていることを反映しています。

オープンソースの採用は CI/CD ツールで特に高く、回答者の 67% が使用しており、クラウドとコンテナ技術、DevOps/GitOps がそれに続きます。これらの採用率は、金融機関が効率的でスケーラブルな開発とデプロイメントプロセスを OSS に依存しており、アジャイル開発と堅牢なインフラストラクチャの両方をサポートしていることを示しています。OSS

の主な貢献分野は、DevOps/GitOps と CI/CD です。これは、ソフトウェアデリバリーを合理化し、運用効率を改善するプロジェクトに焦点を当てていることを示しています。

今これらの優先事項に沿ったオープンソースプロジェクトを積極的に支援することで、金融サービス組織は業務を最適化するだけでなく、持続可能な金融、分散型金融、RegTech などの分野にわたるイノベーションを主導することができます。OSS プロジェクトへの貢献により、業界全体に利益をもたらす相互運用可能なツールとフレームワークの作成がさらに加速され、共有された進歩とコラボレーションが促進されます。このようにして、オープンソースは技術の進歩を促進すると同時に、金融サービスにおける長期的な競争優位性の基盤となります。

オープンソースの恩恵を最も受ける業界分野

1. 業界標準と相互運用性 59%

複雑な規制環境をナビゲートし、システム間のシームレスな相互作用を確保するために不可欠です。

2. 開発コストの削減 54%

コミュニティ主導のソリューションを活用し、重複する研究開発費を回避します。

3. イノベーション 53%

技術の進歩を加速し、この分野が新たなトレンドに適応できるようにするために不可欠です。

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q23、サンプルサイズ=90

表 13

金融サービスにおける主なオープンソース技術

| オープンソースから得られる最大の利益 | オープンソースの最も優れた活用事例 | OSS への貢献方法 |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 人工知能 / 機械学習 (46%) | 1. CI / CD (67%) | 1. DevOps / GitOps (23%) |
| 2. クラウド / コンテナ (36%) | 2. クラウド / コンテナ (62%) | 2. CI / CD (22%) |
| 3. CI / CD (32%) | 3. DevOps / GitOps (52%) | 3. Web とアプリ開発 (21%) |
| 4. DevOps / GitOps (30%) | 4. Web とアプリ開発 (51%) | 4. クラウド / コンテナ (21%) |
| 5. サイバーセキュリティ (27%) | 5. オペレーティングシステム (46%) | 5. 人工知能 / 機械学習 (17%) |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q14、Q29、Q36、各サンプルサイズ=90、87、82

OSS コントリビューター

この調査では、回答者の 52% が OSS プロジェクトに積極的に関与しており、オープンソースへのコントリビューションへの大きな関与が明らかになっています。これらのコントリビューターは平均して週に約 9 時間をオープンソース活動に費やしているが、その時間は大きく異なります。週にわずか一時間から四時間を費やすコントリビューターもいれば、40 時間以上を費やすコントリビューターもいます。これは、コントリビューターの利用可能時間と関与の強さの多様性を反映しています。

調査によると、オープンソースのコントリビューターは主に、学習、個人的な開発、コミュニティへの参加の機会を動機としています。回答者の 72% は、OSS を従来の教育を超えたスキル構築と実践的な経験のためのプラットフォームと考えており、69% は個人的に興味がある、または定期的に使用しているプロジェクトに取り組みたいという欲求に駆られています。さらに、58% は、共通の関心を持つ仲間とつながり、一緒に作業できるオープンソースのコラボレーションの側面を高く評価しています。

しかし、コントリビューターは大きな課題に直面しています。最も一般的なのは、回答者の 63% が挙げた個人的なコミットメントによる時間の制約です。これは、より柔軟なコントリビューションモデルの必要性を示唆しています。財政的な制限も顕著であり、34% は資金または報酬の不足を示しています。さらに、コントリビューターの 33% は、プロジェクトのガイドラインとプロセスをナビゲートすることが困難であると報告しています。

52%

の回答者がオープン
ソースプロジェクトに
貢献している。

9

時間

が回答者がオープンソース・プロ
ジェクトに費やす平均時間で、週
に 1 ~ 4 時間と少ないものから週
40 時間を超えるものまである。

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q44 サンプルサイズ = 1,264

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q45 サンプルサイズ = 604(DKNS を除く)

表 14

OSS に貢献する際に最も多く挙げられた 動機と課題

| 上位の動機 | 上位の課題 |
|--|---------------------------------------|
| 72% 学習と自己開発 | 63% 自分の仕事があるために時間が取れない |
| 69% プロジェクトへの参加に魅力を感じている / 定期的に利用しているから | 34% 資金や貢献に対する見返りが少ない |
| 58% 仲間やコミュニティと働くことが楽しいから | 33% プロジェクトのガイドラインや寄附プロセスを理解してもらうのが難しい |

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q47、サンプルサイズ = 661

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q48、サンプルサイズ = 661、

有効事例 = 661、合計言及数 = 1,519

OSS の資金調達

図 6 は、OSS への貢献に対する資金調達状況を示しています。回答者の半数は、貢献のほとんどが無給であると報告しており、OSS コミュニティにおけるボランティア主導の作業の普及を示しています。

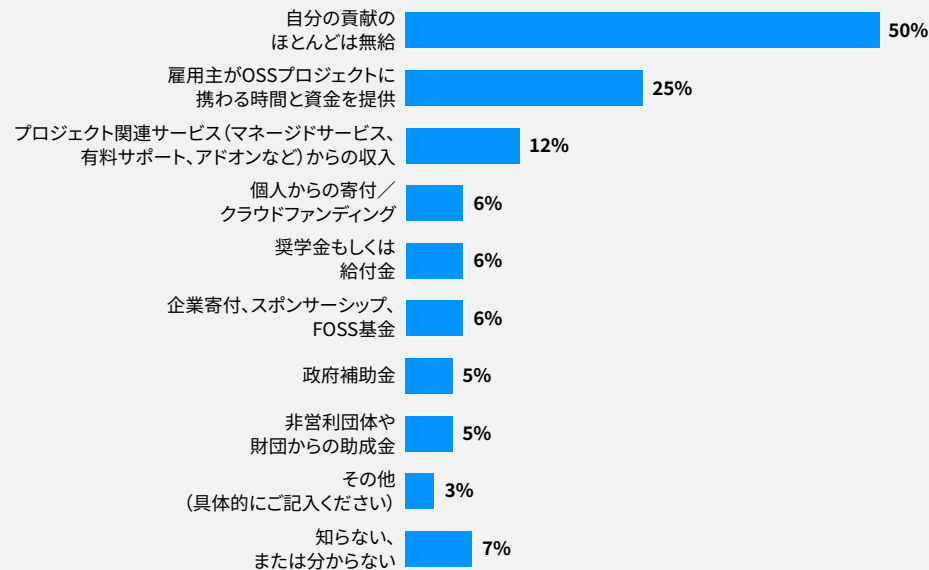
金銭的支援を受けている人の中では、雇用主からの資金調達が最も一般的な資金源であり、25% が OSS プロジェクトでの作業時間を雇用主が負担していると報告しています。プロジェクト関連の収益、個人の寄付、フェローシップなどのその他の資金源は、それぞれ回答の 6% から 12% を占めています。

組織の観点から見ると、37% の企業がビジネスに不可欠なプロジェクトをサポートするために OSS メンテナを雇用しており、74% の組織がメンテナを雇用することに大きな価値があると認識しています。

このデータは、無償の貢献が広く行われている一方で、重要なソフトウェアを維持し、相互利益を促進するために OSS に直接投資する組織の傾向が高まっていることを示しています。

図 6

OSS への貢献の主な資金源



2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q46、サンプルサイズ=661、総回答数=830、「無給」を選択した場合を覗き、複数回答を可としている

37%

およそ 5 社に 2 社が、
ビジネスに不可欠な
OSS プロジェクトを
維持する手段として、
OSS メンテナを
採用している。

74%

そのうちの 74%が、
メンテナの雇用から
高い価値を得ていると
回答している。

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q40、サンプルサイズ=755(DKNSを除く)
2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q41、サンプルサイズ=264(DKNSを除く)

調査方法

2024年世界のオープンソース・国際的な注目点の調査には、オープンソースの使用、貢献、価値、持続可能性をテーマにした48の質問が含まれています。2024年世界のオープンソース・国際的な注目点の調査プロジェクトと調査ツールへのアクセスについては、データを参照してください。以下のWorld accessの見出しを参照してください

調査のスクリーニングでは、回答者を検証するために4つの変数を使用しました。回答者は、すべての人口統計学的な下記の質問に回答する必要がありました。

- 回答者は、OSSの概念に少なくともある程度精通している必要がありました。
- 回答者は、OSSの経験と認識を共有することを望んでいる実在の人物として自己認識する必要がありました。
- 回答者は、自分が話すことができる視点を特定する必要がありました。
- 回答者は、自分の雇用状況を特定する必要がありました。

合計2,222人の候補者がグローバル調査を開始し、958人が調査を完了できなかったか、当社の審査基準により失格となり、1,264人が調査のすべての質問に回答しました。このサンプルサイズの誤差率は90%信頼水準で±2.32%でした。研究チームは、データ収集を企業規模別に層別化しました。組織の種類。層化設計では、これらの変数およびこれらに相関する他の変数によるセグメント化が可能でした。

回答者は調査のほぼすべての質問に回答する必要がありましたが、役割または経験の範囲外であるために質問に回答できない場合があります。このため、ほぼすべての質問に対する回答の一覧に”わからないまたはわからない”(DKNS) 応答を追加しました。ただし、これによりさまざまな分析上の課題が生じます。

このレポートの一部の分析では、DKNS 応答を除外しています。これは、欠落しているデータがランダムに欠落しているか、ランダムに完全に欠落しているかのいずれかに分類できるためです。質問からDKNSデータを除外しても、他の応答のデータ(カウント)の分布は変わりませんが、残りの応答全体の応答の割合を計算するために使用される分母のサイズは変わります。これにより、残りの応答の割合の値が比例的に増加するという効果があります。DKNSデータを除外することを選択した場合は、図の脚注に”DKNSを除外”という語句が含まれます。

このレポートのパーセンテージの値は、四捨五入のために正確に100%にならない場合があります。

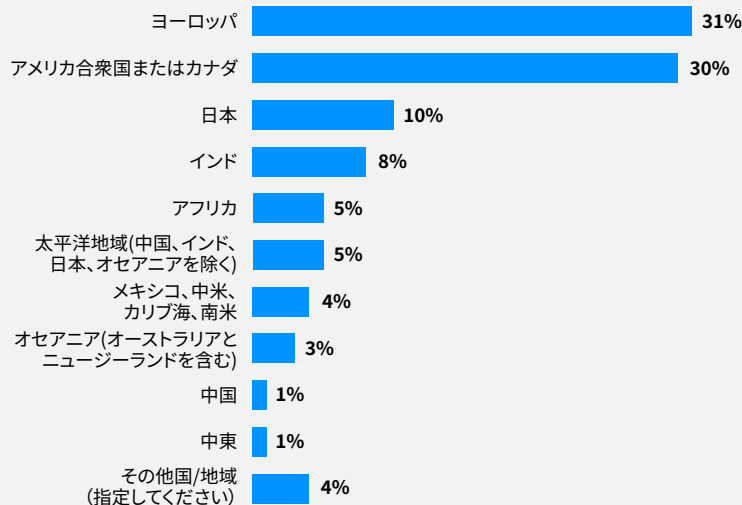
調査の人口統計

図7の人口統計データは、グローバル調査の地理的分布を示しています。回答者は、企業の本社がある地域を特定するように求められました(Q7)。サンプルの31%はヨーロッパに本社を置く組織で働いている回答者から、残りの30%は米国またはカナダに拠点を置く組織からでした。調査結果から Japan Spotlight レポートを作成するために、日本から十分なサンプルを集めることに注力しました。サンプルのシェアは10%です。アジア太平洋地域が23%です。他の地域からも回答を受けましたが、割合は低くなりました。

図8のグラフは、回答者の専門的な役割と、従業員数で測定した会社

図7

あなたの所属している組織の本部はどの国 またはどの地域にありますか (一つ選択)



2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q7、サンプルサイズ=1,065
(問4で現在雇用されていると回答した人のみ。)

の規模を示しています。上のグラフは、回答者の約71%がITの役割を担っていることを示しています。下のグラフは、調査対象の組織の規模が、従業員数が1~10人の零細企業から2万人以上の大企業までの範囲であることを示しています。組織の種類を図9の上のグラフに示します。主な収益がIT製品およびサービスから得られている組織は、サンプルの46%を占めています。これには、ハードウェアおよびソフトウェアベンダー、システムインテグレーター、クラウドサービスプロバイダーなどが含まれます。サンプルの38%には、業界固有のエンドユーザー組織が含まれています。また、学術機関、非営利団体、または政府機関(17%)からの回答者による調査も受けました。下のグラフでは、回答者は自分の組織が属している業界を報告することができました。ほとんどの回答者は、業界横断的なITベンダー(36%)に勤務していますが、サンプルにはさまざまな業界が含まれています。この業界の質問は、レポートの業界の傾向を分析するために使用されました。

調査データ :Data.World へのアクセス

Linux Foundation Research では、各実証的プロジェクトのデータセットを Data.World で公開しています。このデータセットには、調査票、生の調査データ、スクリーニングとフィルタリングの基準、調査の各質問の度数表が含まれています。このプロジェクトを含む Linux Foundation Research のデータセットは、data.world/thelinuxfoundation で見ることができます。Linux Foundation のデータセットへのアクセスは無料ですが、Data.World アカウントの作成が必要です。

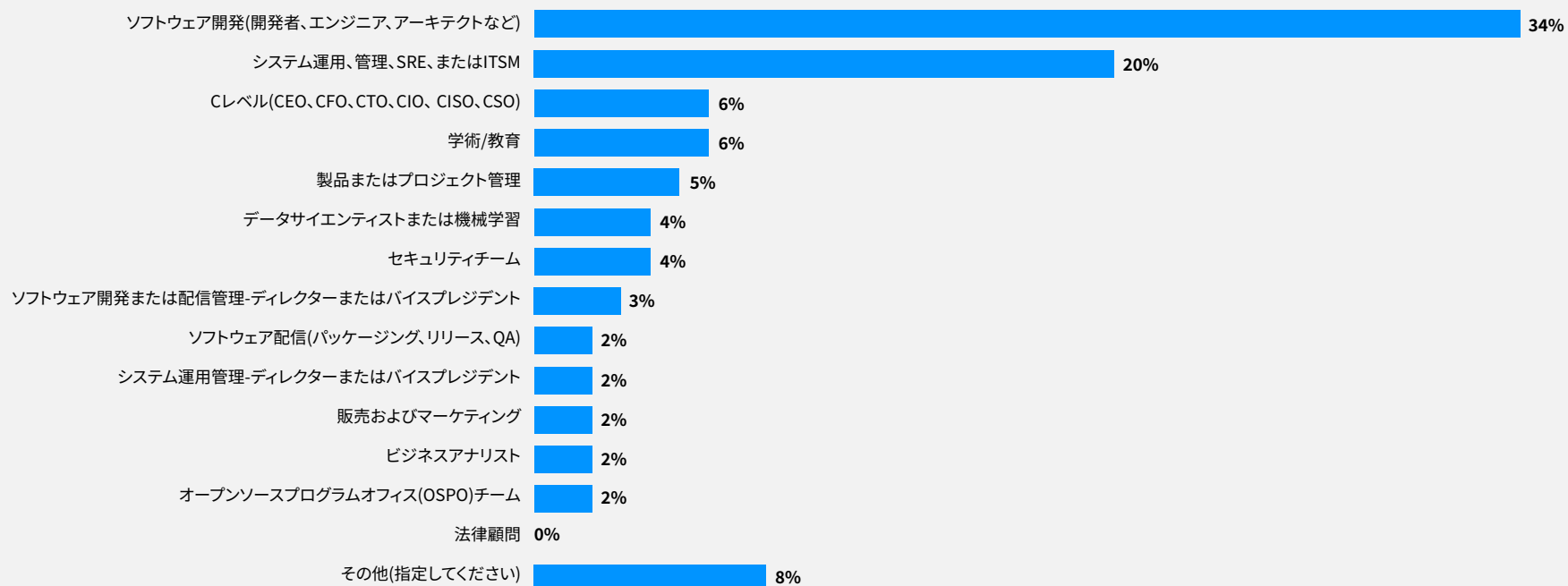
図 8

専門的には、どの役割に最も近いですか？

(1つ選択)

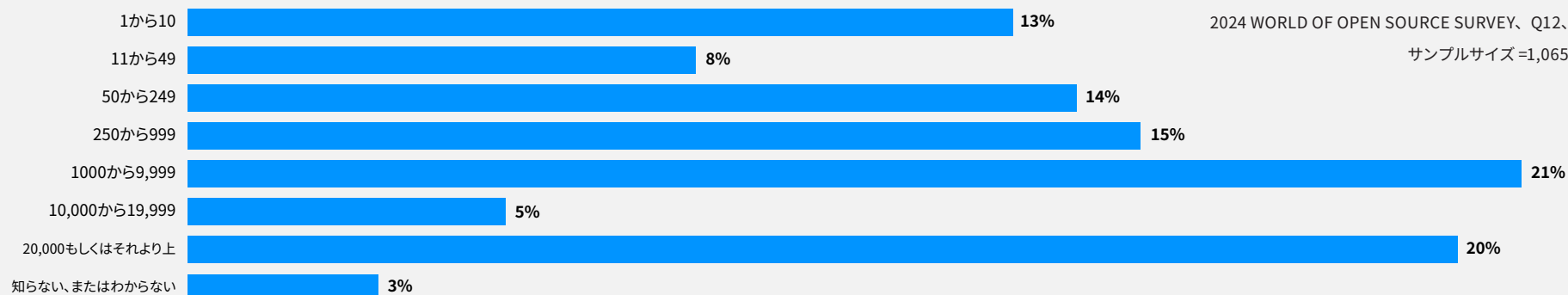
2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q6、

サンプルサイズ=1,089



あなたの組織が世界中で雇用している従業員の数を見積もってください。

(いずれかを選択)



2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q12、

サンプルサイズ=1,065

図 9

どのような企業・団体にお勤めですか？

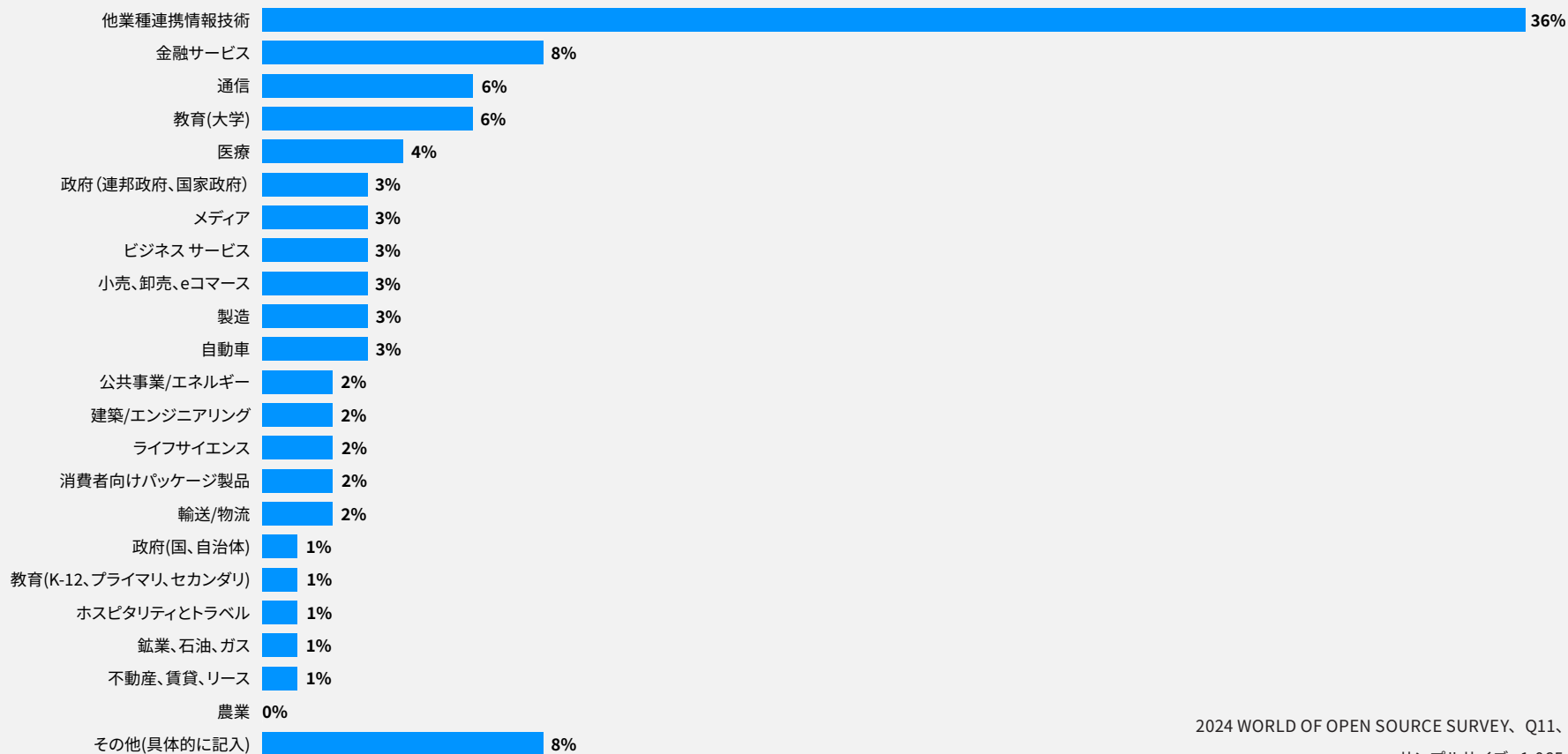
(1つ選択)

2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q8、
サンプルサイズ =1,065



あなたの組織の主な産業は、次のうちどれに最も当てはまりますか？

(1つ選択)



2024 WORLD OF OPEN SOURCE SURVEY、Q11、
サンプルサイズ =1,065

著者について

ADRIENN LAWSON は、Linux Foundation のデータアナリストです。Adrienn は、オックスフォード大学でソーシャルデータサイエンスの修士号を取得しました。調査の開発、分析、およびレポートの作成を担当しています。以前は、オックスフォード大学、ブダペスト政策分析研究所、および英国国家統計局で研究を行っていました。地理的に分散したコミュニティ内でのオープンソースコラボレーションの集成的な力に強い関心を持っています。さらに、オープンソースソフトウェアの資金調達、持続可能性、責任ある技術進歩の追求における開発者の支援に関連する課題の傾向と解決策の研究に最も関心を持っています。

謝辞

オープンソースの状況に関する洞察と経験を親切に共有してくださった調査のすべての参加者に感謝します。Anna Hermansen、Elizabeth Bushard、Hilary Carter、Mia Chaszeyka、Stephen Hendrick、Christina Oliviero など、調査プロセスのさまざまな段階に関与してくださったピアレビューアと Linux Foundation の同僚に特に感謝します。

本訳文について

この日本語文書は、[2024 Global Spotlight Insights Report](#) の参考訳として、The Linux Foundation Japan が便宜上提供するものです。英語版と翻訳版の間で齟齬または矛盾がある場合（翻訳版の提供の遅滞による場合を含むがこれに限らない）、英語版が優先されます。

この日本語文書を引用する際には、下記の一文を記載してください。

引用：2024 Global Spotlight Insights Report 参考訳 (The Linux Foundation Japan 提供)

翻訳協力：木下兼一

2021年に設立された [Linux Foundation Research](#) Linux Foundation Research は、拡大するオープンソース コラボレーションを調査し、新たな技術トレンド、ベストプラクティス、オープンソース プロジェクトのグローバルな影響に関する洞察を提供しています。プロジェクトのデータベースやネットワークを活用し、定量的・定性的手法のベストプラクティスに取り組むことで、世界中の組織にとって有益なオープンソースの知見を提供するライブラリを構築しています。

 twitter.com/linuxfoundation

 facebook.com/TheLinuxFoundation

 linkedin.com/company/the-linux-foundation

 youtube.com/user/TheLinuxFoundation

 github.com/LF-Engineering



Copyright © 2024 [The Linux Foundation](#)

本レポートは [Creative Commons Attribution-NoDerivatives 4.0 International Public License](#) の下でライセンスされています。

この著作物を参照する場合は、次のように引用してください。 Adrienn Lawson, “2024 Global Spotlight Insights Report: The Role of Open Source in Uniting Innovation, Collaboration, and Resilience Across Regions and Industries,” Foreword by Irving Wladawsky-Berger, The Linux Foundation, December 2024.